

時間割コード	G1D11140	開講年度	2026				
授業題目	アカデミック・イングリッシュ・フェイズ (A)					担当教員	山口 和彦
英文授業名	Academic English Phase (A)						
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・5時限	対象学生	再履修生(1年生のみ)
講義室	共通教育40講義室			授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	大学D P						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力					大学での学修の土台となるAcademic Skillsを使えるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	上述の目標を達成するために、Academic Reading及びAcademic Writingの演習を行う。 ・Academic Reading: アカデミックレベルの語彙を修得し、文法や構文の正しい理解を基に学術的な英文を読解する。 ・Academic Writing: 文法・語法、コロケーションの演習、アカデミックレベルの語彙の確認、自然な英語表現を身につけるための演習を行いながら、正確かつ確な英文を書く。						
(5)授業のキーワード	Academic Reading Academic Writing Natural Expression						
(6)授業計画	1. ガイダンス：シラバスに即した授業運営についての説明と発音記号(母音)の解説 2. 英語の音声と発音記号(子音)の解説、及び個人・グループでの発音・発話演習 3. Unit 1 (文の要素) 4. Unit 2 (基本5文型) 5. Unit 3 (第1文型、be動詞・一般動詞) 6. Unit 4 (動詞の種類) 7. Unit 5 (第2文型、名詞[1]) 8. Unit 6 (名詞[2]) 9. Unit 7 (第3文型、代名詞) 10. Unit 8 (代名詞[2]) 11. Unit 9 (第4文型、形容詞) 12. Unit 10 (第5文型、副詞) 13. Unit 11 (冠詞) 14. Unit 12 (前置詞) 15. Unit 13 (接続詞) 及び授業アンケート 16. 期末テスト ＊各週の内容は、扱う順序、文法事項等が異なる場合もあり得る。						
(7)成績評価の方法	・アカデミック英語運用能力に関する課題及び小テスト(60%) ・期末テスト(40%) この授業の達成目標に到達するために必要な出席回数に満たない場合は、成績評価の対象外とし、評点は0点となります。						
(8)成績評価の基準	授業で解説した内容と同レベルの問題が 60%以上解ければ「合格水準にある(可)」 70%以上解ければ「合格水準よりやや上にある(良)」 80%以上解ければ「合格水準よりかなり上にある(優)」 とみなします。						
(9)事前事後学習の内容	予習は小テストや課題などの対策になると同時に、授業の準備としても不可欠なものであるので、授業前には必ず行うこと。また復習も語彙や構文、文法事項などとともに、新たな知識や情報を整理し、定着度を高めることにも役立つので、毎回の学習内容を必ず確認する習慣をつけること。 ・この授業は1単位のため、15時間以上の授業時間外学習を必要とします。						
(10)履修上の注意	授業への積極的な参加と定期的に出題される課題への意欲的な取り組みが必要である。 また、授業外の時間に、なるべく多く英語にふれる機会をつくるようにしてほしい。 なお、担当教員によって使用するテキストが異なる場合があるため、詳しい授業の内容などについては担当教員から直接説明をよく聞くこと。 本講座は、Academic English Phase I (A)(前期開講)において、その到達目標に達成できず単位認定に至らなかった「1年生」のみを対象としたクラスです。【優】を上限とした成績評価となります。						
(11)質問,相談への対応	質問や相談は、授業後に教室で受けつけるが、研究室(共通教育棟南3階)でも対応する。ただし、会議などで不在の場合もあるため、あらかじめメール等でアポイントメントを取ってもらうことが望ましい。						

(11)質問,相談への対応	メールアドレス等は、初回のガイダンス時に伝える。
(12)授業への出席	15回および期末試験のすべての回に出席することを基本とします。この授業の達成目標に到達するためには、15回中12回以上の出席が必要です。 「出席停止」に該当する際は、その旨の申請があり、指示された学修の補充に取り組んだ場合は成績評価の対象とします。 (申請については、翌授業日までに学修の補充に取り組むことを考慮し、基本的に「授業日を含めて4日目まで」とする。)
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	・感染症報告システムに登録し「出席停止」と判断された場合は、健康安全センターからのメールを教員に転送して、学修の補充に関する指示を受けてください。 ・「学修の補充の対象とする事由」により出席できず、補充を希望する場合は、『共通教育履修案内』に掲載されている方法により、共通教育窓口で申請してください。(この場合は、出席扱いにはなりません。)
【教科書】	田中 保他 Make It Clear: Grammar Learning for Beginners and Intermediates ISBN:978-4-255-15514-2 朝日出版社 2019年 1600円
【参考書】	使用する予定はないが、使用する場合は初回のガイダンス時に詳細を伝える。